

6. お年寄りもまちもイキイキ！！聞き書きプロジェクト

グループ名 フナッツ
代表者 石川 智規

①活動の目的

(1) 地域の現状、課題

事業対象となる京都市北区にある紫野学区は、西陣織関連産業が集積した地域であるが、近年、産業が衰退し、職住近接の生活を続けていくことが難しくなっており、地域外に働きに出て、地域で過ごす時間が少ない人が多くなっている。そのため、地域内の住民間の交流が少なくなり、繋がりも薄れており、住民間の助け合いなどができなくなっている。

また、紫野社会福祉協議会が京都市の他地域に先立って実施した独居高齢者調査の結果、独居高齢者は225人おり、近隣との付き合いがない方やほとんど外出しない方がいることが分かった。この状況は、今後も進んでいくと予想されている。調査を実施したこともあり、独居高齢者対策に関して地域の機運が高まりつつある。

このように、地域のつながり薄れつつある状況の中で、独居高齢者調査の結果を生かし、地域で孤立した高齢者をつくらないための行動を起こすことが学区の大きな課題となっている。

一方で、紫野学区は、佛教大学や立命館大学などにも近く、学生が多く居住しており、若者が商店街に出店した店もあり、若者が多く住むまちである。若者の中には、京都という土地柄にひかれ、地域の魅力を知りたい人も多くいるが、学区としては、そのような若者層にまちの魅力を知ってもらい機会を提供できていない状況にある。

(2) 目的

以上のようなまちの状況から、まちの魅力である紫野カルチャーを媒体にして、高齢者と若者の世代間交流の機会づくりを行うことで、高齢者に対しては、孤立しないためのつながりや生き甲斐を提供し、若者に対しては、地域の魅力を知り、まちづくりに関わることのできる機会提供を目的とする。

②活動概要

(1) 紫野カルチャー亭発足イベント

聞き書きの手法により、お年寄りとまちを生き生きとするプロジェクトの発足として、まずは、紫野学区の魅力を確認、再発見するため、高齢者の方も興味を持っていただける内容の発足イベントを開催し、今後の展開に向けた導入とした。

○日時 平成22年7月25日(日) 6:30～15:00

○場所 船岡山、紫野会館、紫野学区内

○内容

・船岡山ラジオ塔前 ラジオ体操

いま旬な紫野カルチャーである「ラジオ塔」の前で、高齢者の方も含め、ラジオ体操クラブの方とラジオ体操を実施。

・「歩くまち 紫野」

講師に立命館大学等で非常勤講師をされている歴史地理学者の中村武生先生を迎え、紫野の歴史解説とまち歩きを実施。

・紙芝居

紫野カルチャーの象徴的存在である船岡山とお地蔵さんを題材にしたオリジナル紙芝居を上演。

・映像上映

紫野カルチャー亭メンバーがいいなと思う場所、風景を撮った写真と言葉で、紫野の魅力を表現した映像を上映。

・写真パネル展示

地域の方にも写真を提供していただき、紫野の今昔を写真で展示。

・「まち」なカフェ

簡単なお茶とお菓子を準備し、自由に紫野談義。

(2) 聞き書き講座

聞き書きプロジェクトに応募してきた若者たちが地域の方に聞き書きをするための講座として、聞き書きの概要から手順、ノウハウを学ぶとともに、2つのグループに分かれて実際に聞き書きを体験し、発表を行った。

○日時 平成22年10月2日(土) 10:00~18:00

3日(日) 10:00~15:00

○場所 紫野会館

○講師 共存の森ネットワーク 代田七瀬氏、稲本朱珠氏

○協力(話し手) 澤治男氏、田中木庵氏

○講座内容

- 1 聞き書きを知ろう
- 2 地域の人に話を聞こう
- 3 聞いた話を文字に起こそう
- 4 文章を整えよう
- 5 構成と演出を考えよう
- 6 Let's 発表

(3) 聞き書き

聞き書き講座の参加した若者17人を8グループに分け、グループごとに聞き書きの対象となる地域の方に2~4回程度話を聞きに行き、作品をまとめた。

○期間 平成22年10月～平成23年2月

(4) 聞き語り講座

聞き書きをしたメンバーが、発表会に向けて「語る」心構え、手法を学ぶため、講座を開催した。

○日時 平成22年12月12日(土) 13:00～16:00

○場所 紫野会館

○講師 永井陽子氏(お種さんのおはなし広場主宰・JPIC 読書アドバイザー)

○講座内容

- 1 聞き語りとは
- 2 聞き語りをしてみよう!

(5) 聞き書き発表会

各グループがまとめた聞き書き作品を話し手の方や地域の方々の前で発表した。

○日時 平成23年2月6日(日) 13:30～16:00

○場所 紫野小学校内 ふれあいサロン

(6) 地域の行事への参加

聞き書きプロジェクトの周知と、聞き書き発表会への地域の方の来場者を呼び掛けるため、地域の行事にブースを出し、紙芝居などを実施した。

ア FUNAOKA STANDARD 2010

○日時 平成22年11月6日(土) 11:00～15:00

○場所 船岡山公園

○内容 聞き書きの紹介・紙芝居・落ち葉を使った似顔絵づくり

イ 紫野まつり

○日時 平成22年11月14日(日) 10:00～15:00

○場所 紫野小学校

○内容 聞き書きの紹介・紙芝居・落ち葉を使った似顔絵づくり

(7) その他

聞き書きプロジェクトを進めるにあたり、地域の方々に取り組み状況をお知らせし、次の講座や発表会をお知らせするために、「紫野カルチャー亭新聞」第1号、第2号を発行するとともに、各講座や発表会等の前には、チラシを作成し、学区内全戸回覧するなど、広報活動を行った。

(8) 活動成果

ア 紫野学区における地域・産業文化・歴史の探求

紫野学区在住の高齢者を対象に若者が聞きとりを行い、紫野学区における地域・産業文化・歴史の変遷を明らかにし、今後、伝承すべき価値を再発見することができるとともに、郷土史の編纂を行うことができた(現在、小学校の副読本として活用ができるよう調整中)。また、地域の文化等をその地に住む高齢者自身が語ることにより、

行政等の調査では顕在化しにくい内容の発見等ができた。これは今後、地域福祉推進を進めていく上で重要となる紫野学区の「誇り」の要素を抽出できたのではないかと考える。

イ 高齢者自身が主体となり人生を肯定できる機会づくり

今回、高齢者が若者に語る、という設定を演出することができ、高齢者自身が人生を振り返り、地域住民として主体（主人公）となり、物語を紡ぐことができた。聞き書きプロジェクト終了後、語り手となった高齢者からも「自分のつたない人生を肯定してくれたような気持ちになり、本当に嬉しかった」等の声を聴くことができた。

ウ 若者が地域に関わるきっかけづくり

核家族化が進む中で、日頃、高齢者と接する機会が少ない若者や地域とのつながりが希薄な若者が、聞き書きプロジェクトに関わることにより、高齢期を生きる人々の生活観・人生観を鳥瞰する機会となり、地域に生きる生活者としての実感をうかがい知ることができた。聞き書きプロジェクトを終えた学生からも「高齢者が住みやすい地域とはどういう地域であるか、今一度考える機会となった」、「一人ひとり、自分の住む地域に誇りを感じながら生きていることを知った」という声を聴くことができた。

エ 地域福祉推進における世代を超えた協働の可能性

高齢者、若者、地域が聞き書きプロジェクトを進めるプロセスの中で互いを知り、主体化が促された点は、多様な主体の参画による自治形成を図る上で、重要な推進要素であったと言える。今後、こうした多様な主体が参画できるプログラム開発において、多くの気づきを得ることができた。

③決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000-
支出	講師謝金	80,000-
	コピー代	9,780-
	消耗品代	32,308-
	通信費	4,801-
	会議費	22,118-
	会場使用料	1,100-
合計		150,107-